

第 35 回 START プログラム (オーストラリア)

2016 年 9 月 2 日から 19 日までの約 2 週間、第 35 回 START プログラムに学部 1 年生 30 人が参加し、Aaron Claude Sponseller 講師 (教育学研究科) ほか 2 人の職員とともに、オーストラリア アデレード市にあるフリンダース大学に留学しました。

フリンダース大学では、附属英語学校の英語教員 3 人の指導のもと、基本的に 1 グループ 10 人に分かれ学習を行いました。学生たちは、英語の運用能力を伸ばす授業はもちろんのこと、現地学生と共にオーストラリアの歴史や文化に関する実際の授業にも参加しました。いかに自らの考えを英語で表現するかに重点を置いたプログラムの中で、2 週間という短い時間の中で可能な限り英語力の向上に取り組みました。その中には、毎日のように現地学生との討論・交流やホストファミリーと共同で行う課題も設けられ、実際に異文化に触れることによって海外で暮らすとはどういうことか、身をもって体感しました。最初は慣れない海外生活の中、全て英語で行われるコミュニケーションや文化の違いに苦勞していた学生たちでしたが、現地での充実した生活を経て、帰路につく日には帰国を惜しむ声が学生たちから多く聞かれました。

その他、大学での学習以外の体験も実りあるものとなりました。

まず、研修中に 2 回現地の小学校を訪問し、児童と交流しました。特に 2 回目の訪問では、日本の伝統的な遊び (折り紙、福笑い、あやとり等) を英語で紹介しました。事前に各学生とも入念な準備を行い、当日は盛況となりました。

アデレード市内の繁華街やマーケット等の見学では、現地の方々の生活に直に触れる機会を得ました。

週末 1 泊 2 日のカンガルー島での研修では、手付かずの自然の中で、日本では見ることのできない雄大な景色や野生動物を見ることができました。幸い天候にも恵まれ、夜には満天の星空も見ることができました。現地産業にも触れ、お土産を多く手にした学生たちにとって、カンガルー島への旅行は今回の START プログラムのハイライトとなったようです。

大学での研修最終日には、オーストラリアに関する 6 つのテーマ (「多民族社会」「政治・経済」「環境・資源」「スポーツ・カルチャー」「ビーチ・カルチャー」) について、5 人 1 組のグループで、英語によるプレゼンテーションを行いました。学生たちは、渡航前からの準備に加え、数十人もの現地学生にインタビューを行うなどして発表資料を作り上げました。渡航前よりはるかにグレードアップした内容を、授業で学んだプレゼンテーション技法を活かしつつ発表できました。渡航前より見違えるほど積極的になった学生たちから多くの質問が飛び交い、研修の終わりにふさわしい実りある時間となりました。

本研修期間中、学生たちは一人一家庭にホームステイしました。現地の文化や価値観の相違をホストとの交流の中で感じるとともに、週末にはホストファミリーとアデレード観

光に出かけた学生も多くおり、学生たちにとってホストとの時間もまた、忘れられない思い出となりました。

最終日の夕方には、お世話になった先生方やホストファミリーを招いての送別会が開かれました。その中で、附属英語学校の教員から一人一人に修了証が手渡された後、学生より教員へのお礼の言葉が述べられ、感極まる学生も多く見られました。

帰国後の事後研修では、全員が今回のプログラムの感想と、今回の経験をどう今後につなげていくかについての発表を行いました。その中で、「さらに長期の留学を行うための準備を進めていきたい」や「自らの専門分野を英語で学んでみたい」といった次のステップを見据えていた学生も多くおり、非常に頼もしく感じました。

本プログラム修了後は各自 TOEIC の目標スコアを設定し、それに向かって取り組みを進めていくこととなりますが、その先にはさらに開けた視界が広がるものと感じています。今回のプログラムにおいて、語学力だけでなく、人間的にも一回り強くなった学生たちが、この経験を足掛かりに将来の広島大学を担っていく存在となることを期待しています。



ディスカッション形式の授業



現地学生へのインタビュー調査



アデレード市内のセントラルマーケットで



カンガルー島の海岸で